

モイモイのモイ

(一歩一歩のたった一歩)



クラウドナイン・クライマーズ・ネット (東京)

伊藤 忠男

<http://www.angkorclimbers.net>



クーレン山東面にある“ポルダー寺”(カンボジア語で“岩寺”と表記される)の背後にゆるやかに競り上がっている辺り(中央)が、クーレンの最高峰と目される。手前のブッシュは、現時点でもクリアされていない地雷原で、こちらからの踏査はバズした。



どうやら最高点に立ったらしい。足元はハイボルダーの上面で、熱上昇風がポーポー吹き上げていた。ひとまずここを頂上とし、みんなでスラブに座って昼ごはんを食べた。

聖山クーレンの最高峰

協力を呼びかけた。

急にコンペコンペと言い出し

ささやかなリードコンペをやった感触から、もう一歩進めて、国際ルールを視野に入れたコンペをやってみようと思いついた。時期は気候の良い来年(2012年)1月にしよう。

そして、そのコンペをアンコールカップと命名、将来カンボジアを代表するコンペにしたいという思いを込めて。開催まで半年、早速、様々な団体、個人に

た僕に、アメリカや日本の友人知人からプラスチック・クライマー(※)を育てているのか、と批判された。しかし、なに、焦ることはない。僕らの思いなど関係なく、然るべきときが来れば何人かは、当たり前前に外の岩へ自らの意志で出て行くに違いないのだから。クライミングを始めた70年代から、僕も山岳での冒険的なクライミングに

目指せ、アンコールクライマー誕生!!

傾倒してきた。しかし、開拓黎明期といえるカンボジアの不安定な岩場に、まだ自己責任の意識さえよく分かっていない子供たちをぞろぞろ連れて行く気には、到底なれなかった。

ミニコンペを終えて僕らは気持ちに少しゆとりが生まれた。クーレン山の真のピーク探しは前年にあっさり解決していたが、そのルートを整理して万人が1日をフルに使うて楽しめる本格的なハイキングルートを作りたいかった。カンボジアには極端に観光化しただけならぬ

トレールか、アオラル山やサムコス山のような超タフな密林、のどっちかしか今のところない。

クーレン山は山脈というよりも広大な高台の総称で、そこには幾つかの緩やかなピークが散在している。最高峰は地図上で487mと記されているが実踏されているかどうかは分からない。何しろそこは猛烈なジャングルの中だ。

もじゃもじゃの低山とはいえ、山を歩く者にとつてピークはそれなりに魅力的だ。

前の年の6月、通い慣れた東端の登山口スバイルーから夕方タベン村に登った。翌朝、ガイドを頼んだ2人の村人とGPSを頼りに最高峰に接近した。やがて展望の良い顕著な岩のピークに出て、そこを飯の頂上とした。高度計は483mで誤差範囲と言えなくもない。そこならスバイルーから1日で、余裕を持って安全に往復できる。

そして、2011年、僕らは7月前半の日曜日、子供たちと「クーレン山最高峰ハイキングルート」を歩くことにした。タベン村を通って、大きな貯水池を掠め、最高点のある北東方向へトレールを辿った。くだんの岩のピークに出て、昼食にした。スラブに長い竹が差し込んで、先端にチベットのタルチョーみたいな旗があった。地元の誰かが、やはりここを頂上としたのだろう。誰しも思うところは同じなのかも。(続く)